

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名

【 熊本県 】 熊本市立帯山中学校

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	生徒 282 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	(1) 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高める。 (2) オリンピアン生き方を学ぶ。
5 取組内容	○講演会及び実技指導 平成30年1月17日（水）に本校体育館にて、矢澤航氏（陸上競技・110mハードル：リオデジャネイロ大会出場）を迎え、講演会及び実技指導を行った。 (1) 講演 講演では、陸上競技を始めたきっかけ、オリンピックを目指すようになった経緯、さらにオリンピック出場に向けて取り組んだことについてお話いただいた。詳細は、以下の通りである。 オリンピックを目標と掲げたのは、2011 年に全日本チャンピオンになったときである。そして、2012 年のロンドン大会の出場をかけた日本選手権に挑んだ。しかし、フライングで失格になってしまった。このときの失敗は、人生で一番悔しい瞬間であった。 ショックで自暴自棄になり、競技を辞めることまで考えたが、2016 年のリオデジャネイロ大会の予選まで1000回も練習することができない、という考えにいたり、本気でリオデジャネイロ大会を目指すようになった。 オリンピックを意識し始めると、陸上の練習だけでなく、日常生活の様々なことを頑張るようになった。トップレベルのスポーツ選手は、勉強もしっかり頑張ってきた選手が多い。嫌いなことも苦手なこ

	とも頑張ることが大切である。逆に言えば、嫌いなことから逃げることは可能性を捨てることである。 講演を通して生徒達に伝えたいことは、自分の夢をしっかりと言える人になってほしい、ということである。夢を口に出すことは非常に勇気がいるが、やりたいことや目標を口に出してそのことに向かって努力することが大切である。 質疑応答 「オリンピックでは有名な選手とすれ違ったりするのか？」 ⇒「オリンピックの選手村はマンションのようだった。日本の2つ隣のマンションがジャマイカだった。ボルトがベランダからメダル見せたりしていた。他にも錦織圭選手や福原愛選手、内村航平選手と一緒に食事をしたりした。」 「トレーニングはどのようなことをしているのか？」 ⇒「みんなが思っているほど特別なことはしていない。陸上は地味な練習が多い」 「食事制限は？」 ⇒「制限は特にしていない。試合前は食べたいものをしっかりと食べている。実は、選手村にあるマクドナルドではハンバーガーやチキンナゲットが食べ放題だった。試合が終わってから、チキンマックナゲットをたくさん食べた」 (2) 実技指導 中学生(91.4cm)、中学3年生及び高校1年生(99.1cm)、高校2年生から一般選手(106.7cm)の3つのハードルの高さを準備し、それぞれの高さやそれぞれのハードルを飛び越すためのインターバルについて説明を行ったうえで、実践の指導を行った。
6 主な成果	講演内容からみた成果 目標をもって、それを他の人にも伝えることが大切であることを理解した
7実践において工夫した点 (事業の特色)	現役アスリートによるパフォーマンスの披露を行うことで生徒の興味関心を持たせることができた。
8主な課題等	単学年での実施となり、学校全体でのとりくみにできなかった。
9来年度以降の実施予定	なし